

空間分割の提案

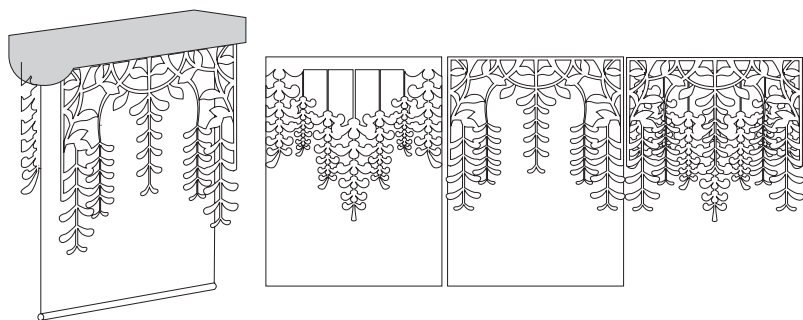
布・アルミ
h1800×w600mm

金森 悠
Kanamori Haruka
デザイン工芸コース

公共の場所では、状況や人間関係によって無意識のうちに相手との快適な距離を選んでいる。距離が選択できない場合には、音楽や携帯電話などで境界を保とうとしている。しかし、このような一方的に相手を遮断する行為は周囲から受け入れられているとは限らない。空間を分け合う双方が快適に過ごすために以下の点を考慮し、ロールスクリーンを利用した間仕切りの制作に取り組んだ。

①完全な、壁・個室としないこと ②変化する状況に対応できるものであること

「感じる壁」をコンセプトに、その場の状況によって変化可能なロールスクリーンを提案する。モチーフを障子とし、石や鳥居等から空間を感じる日本人の感覚に着目した。3層のスクリーンが独立して稼働するため、その場にあった調節が可能。3つの重なりにより、柔らかな境界が生まれる。また、仕切りを従来のロールスクリーンや衝立などより遮光が抑えられる。スクリーンのテキスタイルを変更し、様々な場所で利用してもらいたい。



- ・その場にあった調節が可能。
- ・スクリーンの重なりで遮る密度が変化する。
- ・従来のロールスクリーンより遮光が抑えられる。
- ・スクリーンのテキスタイルを変更し、様々な場所で利用可能。